

地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火の確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根・ブロック塀・自動販売機等に注意



3分

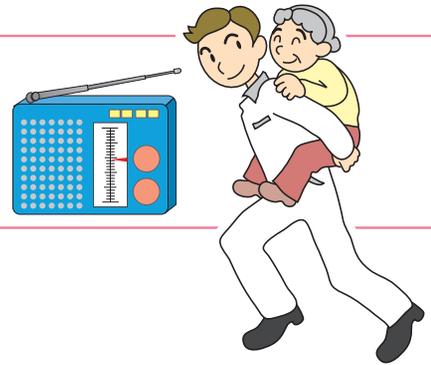
みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ●要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火 ●初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する ●災害用伝言ダイヤルの活用



10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

特別警報をご存知ですか?

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、あるいは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

緊急地震速報(震度6弱以上)などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける。)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける。)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける。)

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。●重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。●ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

※気象庁HPより一部抜粋して提供

命を守るために情報の収集に努めてください



テレビ・ラジオ

インターネット・気象庁ホームページ

広報車

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
 電話:03-3212-8341 FAX:03-6689-2917(耳の不自由な方向け)
 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp>
 特別警報について <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>